

スポーツボランティア・フリートークフェスタ その2
2004年2月22日(日) 仙台市市民活動サポートセンター
11時20分 ~ 12時30分

事例報告発表(速報)

1 ベガルタ仙台・市民後援会(佐藤氏)



「・」は、仙台市民に限らないところをアピール。

活動内容例：

歩み

フリーゲルスの消滅も背景に「チームがなくなったらどうしよう」という気持ちから
市民中心の支援組織として発足。<1999年1月>

会員バッジ代のみ(100円)が入会金できる市民サポート型
1999年の企画は「ベガルタの認知度向上」であった。

<農業企画、カントリーロードなどで認知度を上げる>

2001年鳥栖戦で初の人文字実施 2002年開幕戦の人文字へ
2002年J1以降

宮城スタジアムでのピブス配布

組織解説と各部の活動

2003年の活動(旗プロジェクト等)、2004年の企画(フラッグ新調など新参加型企画)

地域支部の活動

昨年のホームタウンサミットからチームへ「提言」のまとめを提言

2004年はGo ahead and jump!のスローガンにのっとり活動

2 グランディ 21・ボランティア(森氏)



福田へのフラッグ

宮城スタジアムに何が必要か？

世紀のビッグイベントの舞台に、集まりたくなる環境作り - 「来てもらう」

- ・ 距離を縮めるという発想
利用と維持費のアンバランス
物理的距離
- ・ 活動内容
活動の拠点を持つ = 「ボランティアが施設の中に住んでいる」という意識
自分たち自身による活動という発想
活動の議論 - 組織・活動内容・自分のしたい活動の実行方法
県・スポーツ振興財団・グランディ 21 との密接な連絡
- ・ 組織解説
班ごとに考えてボランティア全体で実行
- ・ 2003 年ジュビロ戦での活動事例
的確な情報を提供することなどで、少しでも印象をやわらげられるように...
ここまで来てくださったお客さんの労に報いるホスピタリティーを念頭に
帰りの交通案内、位置関係を整理したチラシなど
遊軍ボランティアがグランディボランティアの顔
自発的に「声をかけて」の業務
車椅子の方の誘導、シャトルバスに関する施設位置を全て把握
- ・ 宮城スタジアム・ピッチ解放
見学案内（施設案内）もあり。
- ・ 花づくり企画・障害者スポーツ体験企画
- ・ ボランティアへの情報発信
- ・ 将来に向けて
他のボランティアとの連携強化（活動、研修、交流など）

3 VVN（泉田氏）



1998 年のブランメル時代にボランティア制度が発足

後援会 - クラブの外からに対しボランティア - 当日、スタジアムの中から

- ・発足当時の目標
ボランティアはゲームのたびに顔ぶれが変わる - 顔は分かるが交流がないことに対して
親睦と自分たちのレベルアップ、他の地域との交流を目的とした。
- ・2002 年まで
他チームへの研修・親睦会・後援会と連携活動
- ・その過程で出た問題
チームを取り巻く環境の変化 観客数増
ボランティアの人数増加による交流問題、ゴミ問題
- ・2003 年の目標と活動
研修の強化 - 緊急医療研修、関係者の講義、接客研修など
マナーアップ運動
<クリーンベガルタ・コップ分別・マイカップ運動など>
仙台カップなどのイベントサポート
ベガルタウンギャラリー
ネットワーク活動 - ホームタウンサミットを契機に各チームのボランティアと情報交換
地味な活動を、楽しい活動へかえていく取り組みを考え実行したい